



環境に優しい高反射保水タイルを開発

瓦の製造販売および屋根工事業。現在は瓦の製造販売が主である。新技術開発にはあまり積極的ではなかったが地域新生コンソーシアム研究開発事業に採択されたことがきっかけになり、廃棄物を主原料としたリサイクル性が高く、環境に優しい不燃成高反射保水タイルの開発に成功した。

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

独立行政法人産業技術総合研究所と愛知県産業技術研究所から、平成 18-19 地域新生コンソーシアム研究開発事業に応募してみてもどうか、と声をかけていただき、経済産業省中部経済産業局の委託事業に採択されたのがきっかけである。2011 年 12 月時点で開発の最終段階に入っている。現在までに実施した活動としては期間限定でガーデン企業において試験販売を実施したり展示会に出展したりした。展示会などを通して、ホームセンターへの卸売業者や外構業者とつながりができたこともあり現在も継続的にマーケティングは実施している。また国土交通省関連機関が実証試験を実施している大阪府内の居住マンションにおいて保水タイルを施工し、温度や湿度を測定する試験にも協力した。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

以前はそれほど積極的に取り組んではいなかった研究開発であったが、委託事業や補助事業を活用することを契機に研究開発に対して積極的に取り組む組織になったことは大きい。また研究開発の幅が広がり公的研究機関や大学との連携も密になったことも成果として考えている。さらに関係機関のプレスリリースなどにより大きな告知効果が得られたことも成果のあったこととしてあげることができる。一方で主に瓦の販売ルートしか持っていなかったため、タイルの相場を把握したり取扱企業との関係構築には苦労した。

業況等について

現在の基幹事業である瓦の製造及び販売に関しては、3 月に発生した東日本大震災以降、東日本方面での修理需要で一時的に繁忙期を迎えている。

今後の展望・見通し

製品開発において実際の使用条件を考慮し凍害性に関して高い目標値を設定している。結果、目標値を達成するための課題が発生しているが補完研究によりその課題も解決しつつある。

また、住宅の屋上やルーフバルコニーなどにおいて実証実験も実施した。ある程度の好結果は得られているので今後はルーフバルコニー用の保水建材、屋上緑化代替用保

水建材、庭先の外構用保水建材などから商品化をスタートさせることを検討している。協力関係にある工務店を皮切りに、その後は瓦の販売ルートも活用し販路を拡大させる予定である。

メリット・デメリット

研究開発に取り組んだメリットは 研究開発に対して積極的な意識が持てるようになったこと、 既存技術ではなかったため宣伝効果が大きく、 現在まで接点のなかった多くの人にも見てもらえたこと、ということになる。一方でデメリットは特になかったと認識している。強いて挙げるとすれば開発に時間が長かかってしまったこと、ということになるが当初から予定していた訳ではなくあくまでも結果論としての位置づけである。

異業種参入時のアドバイス

まだ開発の最終段階であり事業としての結果が出ていないため現段階ではアドバイスができる立場にはないと考えている。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

平成 18、19 年の 2 年間にわたり、中部経済産業局の地域新生コンソーシアム研究開発事業の委託助成を受けた。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

委託補助事業に関しては資金の性格上やむを得ない部分も理解できるが、関係書類を簡略化していただけると、さらに研究開発やその後の事業化に注力しやすくなると感じている。

会社概要

設立:1958 年(昭和 33 年)9 月

資本金:1,000 万円

従業員数:65 名

U R L : <http://www.kamisei.co.jp>